

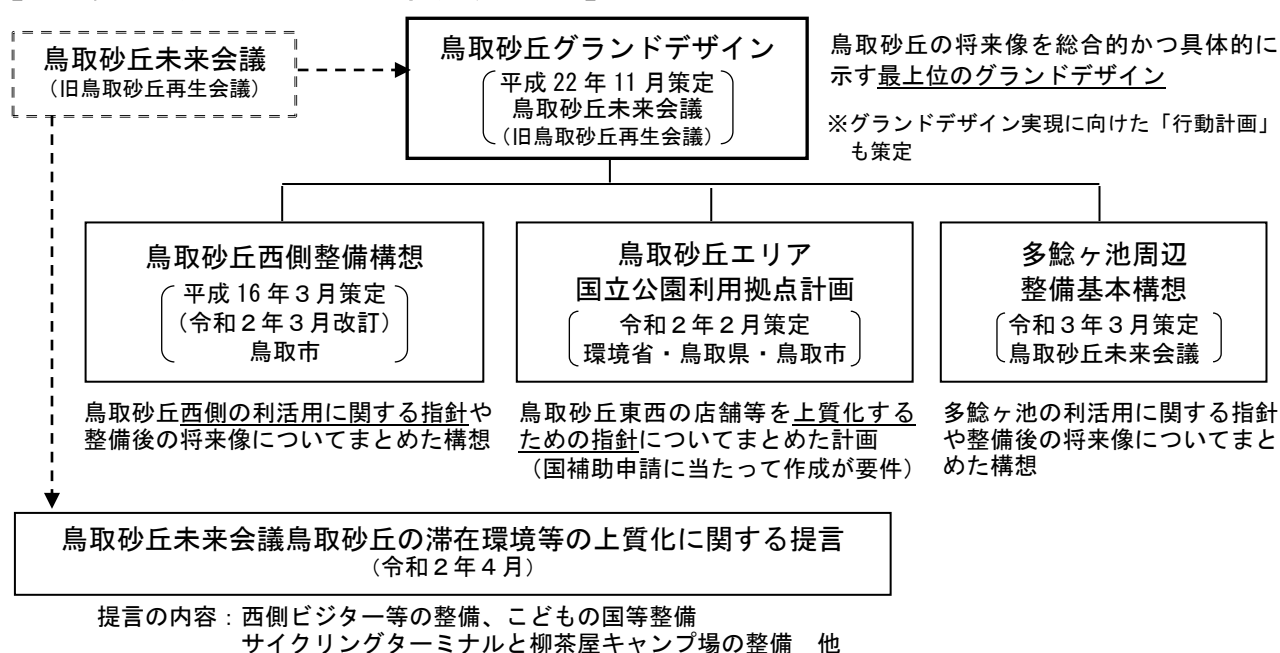
鳥取砂丘グランドデザイン(改訂案)概要版

■現状と取り巻く状況の変化等

1 現 状

- ・地元・関係事業者、大学、行政で構成する「鳥取砂丘再生会議」が平成 21 年に発足し、100 年後を見据えた長期的な視点で「鳥取砂丘グランドデザイン」を平成 22 年に策定。ここで示された砂丘の将来像を目指して砂丘周辺の整備や様々な取組が進められてきた。
- ・平成 30 年度に新たに活動団体や広域的団体（観光・経済）を仲間に加え改組された「鳥取砂丘未来会議」の議論を踏まえ、令和 2 年から 3 年にかけて観光振興等を目的としたエリアごとの構想や計画が策定・改訂され、これらに基づく施設の整備も行われている。

【鳥取砂丘グランドデザインと関連する計画】



2 取り巻く状況の変化等

- ・来訪者数は、アフターコロナにおいて回復基調にある。
- ・インバウンド需要の拡大や個人旅行者の増加に加え、体験型アクティビティ需要の増加など来訪者の形態やニーズも変化している。

(1) 環境意識の高まり

- ・外来植物の侵入や海岸の浸食、県民等の環境意識の変化など、鳥取砂丘を取り巻く環境は大きく変化している。
- ・県民との協働により平成 16 年から開始したボランティア除草は、企業や団体などにもその活動が広がりを見せている。
- ・次世代を担う子どもたちに自然保護を学ぶ場を提供し、県内外の学校による鳥取砂丘への訪問を促進することも必要で、ガイドツアーやアクティビティ、除草ボランティアを通じて、観光客等が砂丘について理解を深め、その魅力を発見することが大切である。

(2) 観光動態の潮流

- ・旅行スタイルが団体型から個人型へと変化している。
- ・個人旅行の増加に伴い、観光ニーズも多様化しており、砂丘周辺でのアクティビティやガイドツアーの充実が求められている。
- ・宿泊や長期滞在が可能な体験メニューの展開などの充実が必要である。
- ・インバウンド対応として、ガイド育成や通信環境の整備などを推進することも大切である。

(3) 世界ジオパークネットワーク加盟による地域活性化の動き

- ・山陰海岸ジオパークは、平成 22 年に世界ジオパークネットワークに加盟し、平成 26 年、31 年、令和 6 年に再認定された。
- ・ジオパークトレイルには多鯨ヶ池自然探勝路など砂丘周辺の歩道も組み込まれている。
- ・鳥取砂丘ビジターセンターでは、海と大地の自然館やジオパーク推進協議会とも連携し、イベントや企画展を開催したり、訪問する児童生徒へジオパークの魅力を紹介するなど、ジオパークの教育的機能も担っている。今後も、地域資源を再認識する教育やジオツーリズム等の地域社会につなげていく多くの取組を、世界を視野に入れた取組へと進化させていくことが必要である。

(4) 大交流時代の到来

- ・高速道路網のミッシングリンクが解消されつつあり、近畿圏など県外との陸路での往来がしやすくなった。
- ・米子空港を発着する国際定期路線やチャーター便は東アジアを中心に拡大する傾向が続いており、インバウンド需要の回復傾向と併せて、今後も鳥取県への来訪者の拡大が期待されている。
- ・空港や駅等からのアクセス手段の拡充や周辺観光地からの案内・誘導により、効果的に鳥取砂丘へ多くの観光客を呼び込むことが重要である。

■鳥取砂丘グランドデザイン

1 基本方針

- ・平成22年に策定した鳥取砂丘グランドデザインは、100年後を見据え、鳥取砂丘の中心部や浜坂から岩戸までの4つのエリアの目標及び全エリアに共通する目標を提示し、概ね10年間の期間を想定し取組の方向づけを整理、提言し、砂丘を活かしたイベントの支援やビジターセンターの整備などを進めることにより、多くの人への魅力発信や受け入れ環境の向上に繋がってきた。
- ・このたび改訂するグランドデザインでは、砂丘を取り巻く環境の変化に対応しつつ、更なる取組の推進・検討を行うことにより、鳥取砂丘の一層の魅力向上を図り、「何度でも来たくなる砂丘」の実現を目指す。

2 鳥取砂丘の目指す姿

- ・従前のグランドデザインでは、「鳥取砂丘の残していきたい姿」を『砂丘特有の風紋、起伏やスリバチ地形が維持され、自然のサイクルによる「砂の動く生きている砂丘」』とし、取組を進めてきた。
- ・今回の改訂においては、将来に向かっての姿勢を明確にし、より発展的な目標とするため、目標の表現を「鳥取砂丘の目指す姿」と変えた上で『貴重な海辺の生態系を尊重し、みんなで守り、育てる「砂の動く生きている砂丘」』とした。
- ・鳥取砂丘ビジターセンターや鳥取砂丘フィールドハウスといった砂丘東西の拠点施設や滞在型複合施設・ヤマタ鳥取砂丘ステーションの整備、新たな観光資源となる様々なアクティビティの誕生など、4つの各エリアにおける利用環境の改善や滞在環境の整備が進んでおり、今後はその整備された環境をより効果的に機能させ来訪者の滞在時間拡大に繋げていくことが重要で、併せて関係機関が連携し鳥取砂丘及び周辺エリアの周遊や駐車場の確保、交通渋滞対策等に向けた環境の整備を行うことにより、交通の利便性向上や来訪者の新たな動線の創出を図り、周辺エリアを含めた活性化を図ることも大切な取組となる。
- ・インバウンド需要に対応するために、多言語による情報発信を充実させることで外国人旅行者への魅力発信強化や更なる来訪者獲得に繋げていくことが求められる。
- ・鳥取砂丘各エリアの取組の推進を図りながら、点ではなく、線や面の展開となるように各取組を連携させ、広がりを持たせることが求められる。

【鳥取砂丘の目指す姿】

貴重な海辺の生態系を尊重し、みんなで守り、育てる「砂の動く生きている砂丘」

特別保護地区等中央エリア ～保全・再生と利用の好循環により砂丘の魅力発見に繋げるメインエリア～

■砂の動く砂丘の再生と砂にふれあう体験の創造

- ・「自然環境の保全を尊重するゾーン」と「利用を推進するゾーン」を区分し、海辺の生態系（砂丘に生きている動植物などの生息環境）を維持しつつ、植生の管理と持続的な除草の取組及び利活用を推進
- ・「利用を推進するゾーン」では、アクティビティやガイドツアーなど砂丘の魅力を体感できるコンテンツを展開
- ・自然の砂の動きと砂丘の成因の解明
- ・自然のサイクルを考慮した砂丘の育成と保全

■砂丘のもつ多様な価値、魅力の発信

- ・ジオサイトとしての保全と利活用
- ・保全再生の必要性を理解し、進んで活動する人材の育成

■砂丘景観の改善の推進

- ・砂丘の保全・再生と、人間活動とのバランスを考慮したうえで、適切な強度・手法での除草等を継続

共通課題

- 様々な人々の理解と協力のもと、鳥取砂丘の自然環境・生態系の保全・再生、良好な景観形成及びこれらに配慮した利活用
- 既存施設とアクティビティにおける体験コンテンツの磨き上げと連携強化
- 周遊性・滞在性の向上
- インバウンドを視野に入れた引き出しやすくわかりやすい情報発信

鳥取砂丘西側エリア

～学びと遊びを通して鳥取砂丘を深く知る滞在型観光の拠点～

■砂丘の楽しさを体感しながら、歴史、文芸、環境を学ぶ取組を推進

- ・鳥取砂丘フィールドハウス、滞在型複合施設などの拠点施設の機能を活かしたガイドツアーやアクティビティなどの推進

■飛砂防備保安林のあり方の検討

- ・保安林機能を適切に保全しながら、景観改善を図るとともに、レクリエーション等への活用を検討

多鯨ヶ池エリア

～廻り楽しみ、水に親しむ緑豊かな水公園～

■観光客に多鯨ヶ池をアピールする取組の推進

- ・多鯨ヶ池周辺の眺望改善・環境保全と人を呼び込む取組
- ・多鯨ヶ池エリアの新たな活用方策の検討

■学術的な調査研究の取組による魅力向上

- ・特別保護地区と一体的な地学的解明
- ・多鯨ヶ池及び周辺の生態的な調査

鳥取砂丘東側エリア

～砂丘のメインエントランスと福部砂丘一帯の滞在・周遊促進エリア～

■自然景観と調和のとれた商業施設エリアの形成

■福部砂丘一帯の多様な資源を活用した滞在性・周遊性を高める取組の推進

- ・らっきょう畑の眺望・景観の保全及び活用
- ・民間活力等によるオアシス広場、砂丘東側唯一の日帰り温泉・温水プール、奥行きのある砂浜等の活用



※現行ランドデザインとの違いを赤字で示しています。

（１）特別保護地区等中央エリア

～保全・再生と利用の好循環により砂丘の魅力発見に繋げるメインエリア～

取組の方向性
① 砂が動く砂丘を再生するとともに砂とふれあう体験を創造します。 ・「自然環境の保全を尊重するゾーン」と「利用を推進するゾーン」を区分し、海浜の生態系（砂丘に生きている動植物の生息環境）を維持しつつ、植生の管理と持続的な除草の取組及び利活用を進めます。 ・「利用を推進するゾーン」では、アクティビティやガイドツアーなど砂丘の魅力を体感できるコンテンツを展開していきます。 ・自然の砂の動きと砂丘の成因を解明します。 ・自然のサイクルを考慮した砂丘の育成と保全に取り組めます。
② 「砂丘のもつ多様な価値、魅力」をしっかりと伝えていきます。 ・ジオサイトとしての保全と利活用に取り組めます。 ・保全再生の必要性を理解し、進んで活動する人材を育てます。
③ 砂丘景観の改善を進めます。 ・砂丘の保全・再生と、周辺の日常生活や観光産業に与える影響、飛砂防備保安林のあり方など、人間活動とのバランスを考慮しながら、慎重に取り組んでいきます。

（２）鳥取砂丘西側エリア

～学びと遊びを通して鳥取砂丘を深く知る滞在型観光の拠点～

取組の方向性
① 砂丘の楽しさを体感しながら、地域資源（文学的、歴史的資源）を学ぶ取組を進めます。 ・地域資源を発掘・整理し、学校や教育機関と連携して砂丘を楽しむ機会や場の提供を進めます。
② アクティビティ等の体験や環境・自然学習を連携させた取組を進めます。 ・フィールドハウスを拠点とした環境・自然学習と周辺施設やアクティビティ等と連携した取組を進めます。
③ 砂丘の固有環境を活かした研究拠点との連携を進めます。 ・乾燥地研究センターやルナテラスと連携し、砂丘を活用した研究の意義の理解を深める取組を進めます。
④ 飛砂防備保安林のあり方を検討していきます。 ・砂の動く砂丘や、景観・眺望の観点から保安林のあり方を検討します。 ・レクリエーション等への保安林の活用方策について検討します。

（３）多鯰ヶ池エリア

～廻り楽しみ、水に親しむ緑豊かな水公園～

取組の方向性
① 観光客に多鯰ヶ池をアピールする取組を行います。 ・多鯰ヶ池周辺の眺望改善・環境保全と人を呼び込む取組を行います。 ・多鯰ヶ池エリアの新たな利活用方策の検討を進めます。
② 学術的な調査研究に取り組み、魅力を高めます。 ・特別保護地区等中央エリアと一体として地学的な解明に取り組めます。 ・多鯰ヶ池及び周辺の生態的な調査に取り組めます。

（４）鳥取砂丘東側エリア

～砂丘のメインエントランスと福部砂丘一帯の滞在・周遊促進エリア～

取組の方向性
① 自然景観と調和のとれた商業施設エリアの形成に取り組めます。
② 鳥取砂丘のメインエントランスに相応しい多言語対応などユニバーサルデザインに配慮した取組を進めます。
③ 「砂丘のもつ多様な価値、楽しみ方」をしっかりと伝えていきます。
④ 地域の素材を活かした取組を進めます。
⑤ らっきょう畑の眺望、景観を保全しながら、活用を図ります。
⑥ 充実した機能を活かし、オアシス広場や海水浴場等のエリア内の資源の連携により、ビーチスポーツ、マリナクティビティ、集客イベントなどの滞在性・周遊性をさらに高める取組を進めます。

（その他）

- ・各エリア共通の取組事例として、「鳥取砂丘とトレイルツーリズム・サイクルツーリズム」の概要、「民間活力による新たな魅力発信」として『「日本一のすなば」魅力まるごと事業』の概要を新たに掲載。
- ・コラムとして「鳥取砂丘の特徴と魅力」「除草活動の意義」「除草した草の活用」などを新たに掲載。